

持続可能な社会の創り手を育てる

FTCチェンジメーカー教育プログラムニュース

発行：2022年6月24日 第4号

FTCチェンジメーカー教育プログラムは、子ども・若者一人ひとりが社会問題を自分ゴトとして捉え、問題解決に向けたアクションを起こし、社会参画を通して学ぶ、当団体が開発した教育プログラムです。毎月学校現場での最新の教育・授業実施事例をお届けしています。

特集：学校でのアクション実施例：高校編 VOL.4

先生インタビュー『自身の成長を実感しながら学びを深める』

鳥取城北高等学校 | 2020年4月～現在



学校・先生情報 ※情報はインタビュー実施当時の情報です。

お名前：上村 魁（うえむら すぐる）先生
ご所属：鳥取城北高等学校・社会科教諭
対象学年・教科：1,2年生 総合的な探究



【主な学習の流れ】

- 1 学期：プログラム教材のチームビルディングワークを行う。
→6月にSDGsに関するFTCJ出前授業①
→プログラム教材のSDGsワークを行う。
- 2 学期：プログラム教材の社会問題に関するワークを行う。
→アクションの起こし方と計画の立て方のFTCJ出前授業②
→グループで企画書を作成。学校の許可を取れたら、
12月から実行開始。
- 3 学期：2月頭までにアクション実行完了。
その後アクションの振り返りと年間の振り返り。

フリー・ザ・チルドレン・ジャパンに授業依頼をしようと思った理由・きっかけ

FTCJ主催のフィリピンスタディツアーへ引率教員として参加したことがきっかけでした。同僚がすでにFTCJの教材を利用した授業をしており、引き継いだかたちです。

授業前後・内容についての感想

▼依頼や導入前の相談から授業準備のやりとり

依頼はメールやメッセージでやりとりをさせていただきました。とてもスムーズで大変助かりました。授業準備に関しては、こちらの要望や困りごとにも寄り添っていただきながら、授業の目的やゴールを共に認識し、進めていきます。事前に資料や準備物の一覧、タイムスケジュール等も送ってくださり、教員間で事前に共有する際にも、とても安心感がありました。

▼授業内容

チームビルディングでは、生徒同士のコミュニケーションスキルが高まり、他の授業でのグループワークや話し合いの際のクラスの雰囲気も良くなったと感じます。

貧困脱出ゲームは、楽しく活動する一方で、まとめでは、とても深く考えさせられる内容であるため、多くの生徒が衝撃を受ける教材です。

ソーシャルアクションを計画、実践する授業では、生徒が提案する計画通りにすべてが進むことはありません。さまざまな条件があり壁にぶつかったときに試行錯誤する過程で生徒の力がついていと感じます。

▼授業後のフォローアップ

オンライン出前授業後に短時間で行う「振り返り」で生徒の授業中の様子をお伝えしたり、ファシリテーターの方の感想を共有したりすることで、教員側の次回の授業へのモチベーションが高まりました。

子どもの様子・変化・学びなど

「自分たちにもできる」「もっと世界のことを知りたい」このプログラムを進めていくうちに生徒から聞こえてくるようになった声です。ある生徒は今まで読んだことのないジャンルの本を熱心に読むようになったり、また、ある生徒は「将来の目標が決まった」と希望進路を自ら提案するようになったり、その表情はエネルギーに満ち溢れています。

このプログラムでは生徒自身が一つひとつの経験を通し、考え、ときには立ち止まり、仲間と意見を交わしながら実践に至ります。したがって、生徒たちは自身の成長を実感しながら学びを深めていくことができました。

難しかったこと、課題

教員同士で事前に授業の目的やゴールを共通認識しておく必要があるため、その時間を割くことに苦労しました。5クラス5名の教員が担当している授業では、担当教員全員が空き時間となるタイミングがなく、毎週、昼休みもしくは放課後の時間15分間ほど使って共有会を開く必要がありました。

ソーシャルアクションを起こす授業構成では、生徒との対話的指導が欠かせないため、教員数がある程度必要だと感じています。

今後の取組を検討している他の学校・先生方へのメッセージ

まずは、一つの教材を利用して、周囲のクラスと共有してみたいかがでしょうか。